

## 夢の目々

二人で入園し、

三人で卒園(二)



大多和 檀

前回は思わず、地元の紹介になってしまいました。せいちゃん、ふみちゃん、そして私の夢も叶えてくれた生活の大事な環境として、幼稚園そのものがどうだったか、ということがあります。

少人数ということもさることながら、歩いて二十分程度の所に、人数的にもあまり差のない区立幼稚園が二つあり、園長、主任が、基本的には「形式ばらずにお互い自然な形で交流し、少人数のデメリットを少しでも解消しましょう」という姿勢をとってくれたこと

が、とても大きかったと思います。

そのお陰で、中でもS園とは、卒園まで兄弟園のように何かと行き来し

——この道中でも「地元発見」の楽しみがありました。大きなパン屋さんを見つけ、ガラス窓にへばりついて天火から出てくるパンを見たり、ふみちゃんの好きなインコを飼っている家を見つれたり、路地に入ったら、先生だけ太すぎて抜けられなくなったりと……、園外保育も日

▼S園の同年齢のお友達

S園のT君はクラスでは男の子一人でしたので、せいちゃんとお友達になりました。



▼S園と一緒に砒公園へ

落葉のフトンは気持ちがいい！

ふみちゃんとSちゃんが落葉を集めています。

程を合わせて出かけていき、お互いせいちゃん、ふみちゃん以外の同年齢の友達も見つけました。

又、図書館も十分程度の所にあるので、ここでS園と待ち合わせしたところともしばしばあります。公園内にある図書館ですので、本を借りたあとで、普段二人では非常に疲れてしまいうりれー、鬼ごっこを楽しんだものです。

こういった事自体が、今の私の園



から見ると夢のような生活です。

この図書館利用というのは私にとっては神明幼稚園に来て初めて体験したことですが、びっくりしたのは、子どもたちが、たくさんある本の中からちゃんと自分に合った本を見つけてくることです。

ふみちゃんは鳥が好きで、どうしてか鳥の出ている本を見つけてきます。せいちゃんは虫の図鑑とか細かい絵のある本です。

これもなんと幸せな事だったかと思えます。たくさん絵本に囲まれ、自分のペースでゆっくりと選んでくる時間があるという……。今私のいます横浜の瀬谷区ではそうはいきません。図書館は遠いし、道路状況が悪くてとても歩いて行かれません。それで、園内に図書室つばい場所を作ろうと今、予算のやりくりをしているところですよ。

さて、もう一つ、神明幼稚園は小学校との併設園だったということがあります。

小学校も少人数ですから、行き来が本当に自由でした。

休み時間になると砂場に遊びに来たり、二人のお店やさんごっこのお客さんになってくれたり、スキーごっこに加わったり、虫の名前を覚えてくれたり——私がカマドウマという虫を知ったのも小学生からです——、運動会の練習を応援したり、プールを使ったり、大カルタ大会を一緒に楽しんだりと……。

何事も無理なく一緒に行い、小学生がお世話をしてくれました。



▼七月はふみちゃんの誕生日の月

せいちゃんはふみちゃんに内緒で、ドレスを作ってプレゼントしました。

学校にはよく業者の人が入って作業をすることがあります。ある日、プールのフタあけ作業があり、これを目にした二人は、三人のおじさんが汗をかいて慎重にフタを重ねている姿をじっと見ていました。せいじ君が思わず「すごいね、力持ちだね!!」と言うと、おじさんが「この板に比べたらみんななんか軽い軽い」と言っ、ふみちゃんの肩の上をつかんで持ちあげてくれ、「ワー!!」とどびっこりしたこともありま



した。

そして、何より他学年のクラスと自由に行き来できたことです。外遊びはもちろんのこと、部屋の中でも、トイレをはさんで両方に部屋があるため、何気なく雰囲気を感じとったり、遊びに加わったりできました。

この当時の二人は、せいちゃんは何にでも興味を示し、「楽しいね」「ふみちゃんもやろう」と、ふみちゃんに声をかけ、一方、ふみちゃんは一人で書いたり作ったりする事が好きで、遊びには自分から「入れて」と言えず、せいちゃんから声をかけられるとホッとうれしそうな顔をする、という状態でした。

ですから二人でいるとあまり波風が立たない状態でしたが、年長さんが加わる事によって、「変なの、この絵」とか「泣いたって入れてやらない」と言われる事もあって、「困った、どうしよう」「そんな事言われると悲しい」という事を感じるととても大切な体験だったのです。

(まこと幼稚園)